

WPCF 2016 in Korea

8月30日から9月2日の日程で WPCF(World Print & Communication Forum) が韓国のソウルで開催されました。これは 2005 年に南アフリカのケープタウンで開催された大会以来の大規模なもので、参加者は 30ヶ国から 170 名を数えました。この大会の開催には、韓国で文化・芸術・映像・広告・出版・刊行物・体育・観光に関する業務を管掌する省庁である文化体育観光部 (Ministry of Culture, Sports and Tourism) がスポンサーとなっています。

8月30日に開会式が開催され、式典には文化体育観光部の長官も出席されました。

8月31日には WPCF の理事会が開催され、参加連合会各国の業界状況の意見交換が行われました。また韓国の印刷機材展 K-Print Week 2016 の開会式及びその視察や WPCF 記念コンファレンスが開催されました。

コンファレンスでは英国の SmithersPira、ソウル国立大学、中国印刷及設備器材工業協会、Intergraf、モスクワメディア産業アカデミーやハイデルベルグ、Sungwonadpia などのベンダーから発表が行われました。

なお、WPCF2016 の出張報告会は 11月22日に日印産連にて行います。詳しくは HP をご覧ください。



WPCF 記念セミナーの様子

坡州 (パジュ) 出版都市

WPCF のイベントの一環として坡州 (パジュ) 出版都市の視察が行われました。坡州はソウルから 30 キロほど北に位置する都市で、ここに 1998 年から韓国の文化

体育観光部が出版から印刷、取次までの全ての機能を 1か所に集積した国家文化産業団地として開発を進めてきました。現在では関連する企業が 300 社近く入居しています。また出版だけでなく、映画や映像関連の企業の誘致も進めており、一大メディアセンターの構築を目指しています。

またここは自然との調和を目指したモダン建築をコンセプトに街が作られており、非常に美しく整った雰囲気醸成されています。出版や印刷関係の企業だけでなくブックカフェや古本屋、ギャラリー、レストラン、アウトレットなどもあり、中心にはアジア出版文化情報センターがあります。ここは出版文化に関する情報提供や研究、教育、イベント開催、国際交流などを行うための複合文化施設として機能しています。



数多くの書籍が集められているアジア出版文化情報センター

韓国の印刷産業の概要

韓国の印刷産業は企業数で 18,523 社を数えるものの、従業員数 10 名以上の企業は 1,170 社と全体の 6.3% にすぎません。また出荷額は 83 億ドル(約 8,300 億円)で、このうち 44.6%にあたる 37 億ドルが従業員数 10 名以上の企業によるものです。従業員数で見ても、全体で 72,712 人に対して 10 名以上の企業は 27,654 人と 38% を占めています。

この数字から見ると韓国の印刷業界は日本以上に規模の小さい会社が多く、また印刷市場の規模も日本の約 1/7 と GDP が日本の 1/3 であることを考えると、相対的に印刷市場が小さいことが伺われます。